



季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）

本覺山妙壽寺が発行する寺報です。

檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに  
広くお読みいただければ幸いです。

本覺山 妙壽寺（法華宗（本門流））

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1

電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427

ホームページ http://myojyuj.or.jp

無縁社会と寺縁 その19

8月15日、戦後70年を迎えました。当山本堂での年回法要後の法話で、折々に故人の年齢が八十年代であれば終戦時は十代、九十年代であれば二十代であったわけで、戦前の困難、戦中の苦難、戦後の混乱のそれぞれの時代を乗り越えて、私どもに命を始めてする有形無形のものをお残しいただきました。尊いご生涯だったと思います、とお話しております。戦後70年、この節目の年に国として他国とどう向き合い、国のあり方やその基本理念をどう構築し、運用するかの論議が喧しい今日この頃です。当山総代であるお一人の先生が、日本国憲法は、アメリカの占領政策の中で若手の官僚が平和主義・理想主義に燃えて構想したものであると述べておられました。その憲法を遵守して、平和で豊かな社会を創造して来たわけですが、これからの五十年七十年を世界の国々と平和で友好に歩んでいく道を模索する過渡期にあると痛感します。社会・政治の現実の葛藤を見据える中で、宗教が目指す平和と奉仕の精神を今以上に発揮し、行動し続けることが重要と考えるものであります。

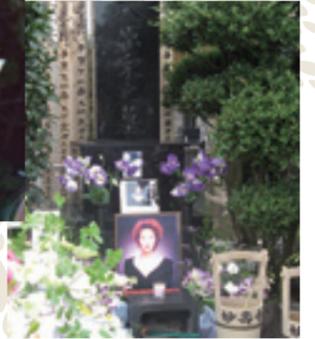
鴉 鴝



毎年恒例の「竹灯籠能」で使われる竹灯籠は、境内にある竹を切り出し、一つひとつ丁寧に造られ、雨の日も灯が消えぬよう工夫されている。本年は10月24日（土）開催

大原麗子さん七回忌法要

8月2日、当山にて大原麗子さん（華麗院妙舞大姉）七回忌法要が俳優・渡瀬恒彦さん、演出家・石井ふく子さんはじめ、60余名が参列し、肅かに奉修されました。



寺日記

てらにつき

●6月3日 信行勸学院上棟式  
興隆学院専門学校新校舎新築に続き、尼崎大本山本興寺建立による信行勸学院上棟式が奉修されました。10月1日からは同専門学校に寄宿舎となります。

●6月11日 京都真々庵見学会  
日本橋倶楽部主催による松下幸之助夫妻建設の京都南禅寺畔別荘群にある松下真々庵を見学。

●6月18日 「シリーズ日蓮」刊行祝賀会  
新宿京王プラザホテルにおいて「シリーズ日蓮」刊行会主催の基調講演・シンポジウムが行われ、その後、祝賀会が開催されました。

●6月19日 東京教区宗務所総会  
於 宗務院（日本橋人形町）

●6月19・20日 日本橋倶楽部金沢研修会  
19日金沢市金城楼集合、20日富山高岡市にある国宝高岡山瑞龍寺、高岡大仏等の見学。

●6月21日 法華宗陣門流本成寺晋山式  
新潟県三条市の法華宗陣門流本成寺晋山式において、第八十九世貫首（管長）・門谷日悠猷下の晋山式が挙行されました。

●6月22・23日 全日本仏教青年会沖縄大会  
22日沖縄県那覇市において、全日本仏教青年会主催による沖縄大会開催。慰霊法要、基調講演、宗教対話等が行われ、23日には平和行進、慰霊祭が行われました。

●6月16日 定例総代会  
総代9名全員出席・於 日本橋倶楽部

●6月27日 大坪師子息婚札  
横浜市伊勢山ヒルズにおいて、当山職員・大坪頭孝師佐代子夫妻の長男・大坪祐一氏と天本みわさんの華燭の典が執り行われました。

●6月30日 興隆学院専門学校前期閉校式  
学林宗務院連絡協議会（学務協）・於 尼ヶ崎市

●7月3日 沼津日唱庵お見舞い  
沼津市大本山日光長寺中の日唱庵川口日唱上人療養中につき、同上人を静岡県函南の通信病院へお見舞いに行きました。

●7月6日 入谷鬼子母神朝顔市  
毎年7月の6・7・8日に開催される東京下町の風物詩、入谷鬼子母神（真源寺）当山（組寺）朝顔まつりが催されました。

●7月16日 当山孟蘭盆会法要  
新盆会お参り80余名の方々をはじめ、400余名の方々には台風11号接近のなか、ご参詣をいただきました。

●8月15日 終戦追悼法要  
●8月25・27日 北海道教区教学講習会  
法華宗主催による北海道教区教学講習会が札幌市において開催。講師林橋隆真・大平寛龍両先生、担当部長・当山主人にて行われました。

KUGENJIN & SAN FRANCISCO 鶴沼・桑港から  
●7月23日 孟蘭盆会 猛暑のなか宗務院渡部憲吾上人法話に続き、孟蘭盆会法要が奉修されました。  
●8月20日 海施餓鬼法要 恒例の海施餓鬼が伊東沖にて執り行われました  
●8月2日 サンフランシスコ日蓮教会において、恒例の孟蘭盆会法要が奉修され、60数名の方々の参詣をいただきました。

左位牌壇整理についてのお知らせ  
この度当山では、本堂左位牌壇の調査整理を行うこととなりました。昭和57年に旧本堂から新本堂への遷座以来33年が経過し、今後の継承者と祀り方について検討することとなりました。これにつき、ご要望等がありましたら当山受付までご一報いただければと存じます。

ネパール大地震募金のお礼  
本年4月25日にネパールおよび周辺国で発生した地震により、建物や文化財も多数倒壊するなど甚大な被害がでました。檀信徒皆様より30,840円（7月16日現在）をお寄せいただき、法華宗宗務院にお届けいたしました。ご協力ありがとうございました。

一之輔落語×竹灯籠能「狸々乱」  
しょうじょうみだれ  
平成27年10月24日（土）  
於 妙壽寺本堂  
開演 14:00（開場 13:30）～18:00（予定）  
14:00 第一部 春風亭一之輔独演会  
16:00 第二部 竹灯籠能「狸々乱」  
\*第二部開演前には「狸々乱」に因み、振る舞い酒をご用意する予定です。いつもとは趣の違う舞台をお楽しみください。  
あらすじ：唐の国、揚子の里で酒を売る親孝行の高風と言う青年がいた。その高風の店へ、夜毎に酒を呑みにくる店の常連の男がいた。どれほどの量の酒を飲んでも酔態を見ることがない。あまりの不思議さに名を尋ねると、海中に住む狸々という精だと答えて立ち去った。そして、今宵、「狸々」が、川辺で酒を用意して待っている高風の前に現れた。狸々は高風に親孝行の果報として「酌めども尽きぬ百葉の霊酒を混ぜた壺」を与え、自らも酒を楽しむ無に戯れながら夢の中へ行っていった。しかし、狸々がくれた酒の壺は夢に覚めることもなく、酒が尽きせぬ高風の店はめでたく栄えたのであった。  
◎入場料（全席自由）  
一部・二部通し券 一般6500円 学生4000円  
一部のみ 一般、学生共に2000円  
二部のみ 一般5000円 学生2000円  
◎チケットお申込み  
電話予約 カンフェティチケットセンター  
TEL:0120-240-540（平日10時～18時）  
当山でもチケットをご用意しております。  
◎お問い合わせ…代々木果造会  
TEL:03-3370-2757（平日10時～18時）

宗務院 DIARY  
6/17・7/24 ▶責任役員（内局）会議  
予告 10月14日（水）正隆会 秋のウォーク  
両国探訪と隅田川ランチクルーズ  
午前10時より（JR両国駅西口改札集合）参加費：6,000円  
ウォークコース（案）  
両国駅 → 回向院 → 相撲博物館（両国国技館内） → 旧安田庭園 → 横網町公園（復興記念館） → 船宿釣新（厩橋・隅田川ランチクルーズ12時乗船 乗船時間約90分） → 下船後解散（14時頃の予定）  
\*詳細は別紙参照  
お問合せ事務局：中島 携帯電話 090-1508-1188

妙壽寺 2015 秋冬スケジュール  
9月23日 秋の彼岸法要  
午前11時：中日合同法要 初座  
正午12時：歴代墓所参拝・正隆廟法要・動物廟法要  
午後2時：中日合同法要 第二座  
11月3日 御会式法要 午後2時（法話 午後1時）  
1月1日 元旦国祈会  
2月3日 節分会・正隆会月例講

正隆会 [SHORYU-kai] 午後2時開催  
月例講 ご案内  
当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟前法要を奉修しております。  
9月12日（土）勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読-25-  
10月14日（水）正隆会課外活動 秋のウォーク（上記参照）  
11月14日（土）写経会  
12月12日（土）一万遍唱題行  
勉強会「法華経の略要品」（大平宏龍 著）拝読-1-  
1月9日（土）初題目、勉強会「法華経の略要品」拝読-2-  
1月22日（金）猿江妙壽寺稲荷初午大祭（予定）  
2月13日（土）勉強会「法華経の略要品」拝読-3-  
3月12日（土）東京大空襲祥月忌・写経会

# 本堂落慶30周年記念インタビュー

## 小佐野 章 氏

(元住友海上火災保険勤務)

聞き手 三吉廣明上人

(平成27年7月1日 武蔵野市吉祥寺東町・小佐野家)

**住職** 本日は小佐野家にお邪魔しまして、ただ今お線香を上げていただきました。本年4月20日に奥様(常寿院妙章日貞大姉)が亡くなられましたが、ご主人様としてさぞお淋しいことと拝察申し上げます。当山本堂においてお葬式を出させていただきます。小佐野家とお寺との深いつながりを感じました。

今年(戦後70年)です。年々戦争の記憶が遠のいていく中で、小佐野様に戦争体験および先代日照上人のお話を伺わせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

### 妙壽寺とのご縁

**住職** 最初に妙壽寺とのご縁ですが、ともかくにも山梨県富士河口湖の常在寺様です。ご先代森智孝(日要)上人は私共宗派の初代宗務総監をお務めになりました。日照上人にとつては宗務上、師匠のような方に当たるわけです。小佐野家はその常在寺さんのお檀家なのです。

**小佐野** そうです。

**住職** 集落中が皆、小佐野姓ですか。

**小佐野** いえ、集落にはいろいろな姓がたくさんありますが、村の歴史を辿ると一番トップにいたのが小佐野姓を名乗った人々のようですね。

**住職** 地区名は何とおっしゃるのですか。

**小佐野** 勝山村ですが、今は富士河口湖町勝山です。大正11年5月27日に次男坊として生まれ、小学校6年生までいました。私の父は田舎人の割には勉強に目覚めていて、甲府の師範学校に通っていました。卒業直前に病気で村に帰って来ました。祖父は農業がベースでしたが、父は雑貨商、田舎のよろずやのような商売を始めて、しばらくやっていたんです。

小さな部落ですからそれまでなかった郵便局をつくることになり、父が郵便局長になりました。それは指名されたのか、立候補したのかいささつはわかりませんが…。

**住職** 地方の名士で信用のある方でないと受けられないですね。

**小佐野** そうです。郵便局長を務めながらいろいろなお話を伺っていました。



小佐野章氏と三吉廣明住職

**住職** そのころの常在寺住職の森智孝上人と小佐野家との関係は?

**小佐野** 祖父は分家しましたが、本家が常在寺さんと親しかったため、分家しても親しくしていただき、その後、父が檀家総代などを務めていました。

**住職** 小佐野さんはご次男で、地元の小学校を出て、中学はどちらですか。

**小佐野** 大月です。

**住職** ということは、ご両親と一緒に生活されたのは12年ぐらいですか。

**小佐野** 12年しかありません。

**住職** それは今の時世とはとても違いますね。

**小佐野** 私の親というのはすごいですね。子供を放任しても、教育をつけることに専念したのです。そのかわり、どういう生活を送っているかよく見に来ましたよ。大月の郵便局長と仲がよかったです。仕事の話をする傍ら私のところにも来ていました。それから常在寺智孝上人のご紹介で、15年、妙壽寺さんにお世話になりました。

**住職** そのころは、妙壽寺は深川から烏山に越してきておられますが、上京された初日はいかがでしたか。

**小佐野** 初日は父と一緒にです。父は折々、必ず私と同行していましたね。その後の出征時も親父と妙壽寺で一泊しています。

**住職** 当山の今の第一庫裡、西祥苑は、建てかえる前は日本家屋で、その1階の奥の間に日照上人の居間がありました。いろいろな方に伺うと、日照上人にお目通りするには、まずそこに来てご挨拶をしてお話を承るとよく聞いておられました。やはり上京された初日は日照上人がおられましたか。

**小佐野** その時もいらつしやいました。

**住職** それからお寺の生活がスタートされたという事ですか。

### 妙壽寺での寄宿生活

**住職** 戦前の妙壽寺はいかがでしたか。

**小佐野** お弟子さんが4、5人おられました。露木泰隆さん、浦辺泰恭さん、矢吹一郎(泰英)さん、後に教師になられた一郎さんの弟の智康さんもいましたね。私はその中でまったくの俗人でした。

**住職** まるでお坊さんのような感じですか。

**小佐野** 俗世間で、なじまなかったんですよ。一はじめなかったと言ったほうがいいかもしれません。ただ余談ですが、お塔婆の表面はもろろん書くことは許されませんが、忙しいときは裏面に誰が書いてもいいようなところがあって、2回ぐらい書いた記憶があります。あれは大胆なことをしたものだと思えますよ、でもそれが許されたのですか。

### 戦勝ムードの中で、召集

**住職** 当時の世間の空気は、まだ戦勝ムードのような感じでしたか。

**小佐野** 戦勝ムードそのものでした。私たちが出征するのは、まだ負けるという意識が余りなかった時代ですね。

**住職** やがて赤紙、召集令状が勝山村に配達され、ご両親から妙壽寺に知らせがあったわけですね。

**小佐野** 学徒動員ですから、通知が田舎に来て、それを知って田舎に帰り、そこでみんなに見送られる。さらにお寺でもう一回見送られ出征したわけですね。



日本大学法文学部英法学科進学生時。当時は青雲の志に燃えていた(昭和17年4月)

**小佐野** 桜上水にある日大の予科です。

**住職** 今は、日大文学部に併設された日大櫻丘高校がありますね。

**小佐野** よくご存じですね。畑の中でしたが、その予科に通学していました。

**住職** 予科の後は?

**小佐野** 2年間在籍して、法学部へ。

**住職** 神田三崎町ですね。

**小佐野** 日本本部の前に法学部があり、そのころの私は一生懸命勉強をする癖がついてきて研究室に入りました。そこで2年たないうちに出征することになってしまいました。18年12月です。

**住職** 出征前の18年までの2、3年間のお寺での生活は、やはり朝早くに日照上人が、皆さんとお勤めをなさったのですか。

**小佐野** 日照上人はすごいですよ。ああいう生活はどうしたらできるのかというほどで、朝6時ぐらいに起きて、お経を上げながらハタキをかけて回るわけですね。お弟子さん方のほうがむしろ起きるのが遅いぐらいでね。日中も忙しく午後になるとたいいとお出かけに日中も忙しく見送りとお迎えをしているのは、皆さんも存じ上げておられると思います。

**住職** 私事になりますが、日照上人の家族、私の父の顕道は…。

**小佐野** 長男の清治さんは病気で…。顕道(次男)さんと夫佐恵さん、恵子ちゃん(3人)でした。

**住職** 顕道は、その当時は国士館中学に通学していましたか。

**小佐野** そうです。顕道さんは私より3つ下でしたか。

**住職** 大正14年ですからね。恵子叔母はまだ小学生ですね。

**小佐野** そう、そう。甘えん坊でね、一郎さんなどにしよつちゅう自転車に乗せてもらったりしていました。

**住職** (笑) お姉さんの夫佐恵さんは…。

**小佐野** 夫佐恵さんは私と同じ年ですね。

**住職** もうお寺のお手伝いとかなさっていたのですか。

### 軍隊生活と東京空襲との遭遇

**住職** 軍隊名は…。

**小佐野** 高射砲49連隊だったと思います。

**住職** 内地で結構訓練されたか。

**小佐野** 経堂の連隊でしたが、溝の口の台地に基地があり、即日、高射砲陣地に配属され、兵隊生活が始まったわけですね。

**住職** 外地には行かれましたか。

**小佐野** 行かなかったんです。千葉の小中台にある高射砲学校に行つて訓練を受けて見習士官になりましたが、卒業時、内地に残る者は1割、9割が外地で、その1割の中に入りまして、その辺は外地運がよかったです。私と仲の良かった者が外地に行く船で米軍に撃たれて亡くなりました。高射砲学校で仲のよかつた仲間でした。

**住職** そうですか。不運でしたね。

**小佐野** 本人の努力とか、そういうものは関係ないわけですからね。まあ、あのころの話は思ひ出さずすからいい、いろいろなことがありましたが、ただ、私がその当時の仲間に対して申しわけないのは、いつも甘い汁を吸ったと言ったら語弊がありますが、外地には行かず内地に残り、比較的楽なところに配属されたとか、どう表現したらいいのでしょうか。私もそんなに善人ではないはずですが。

**住職** つい先ごろは、沖繩戦70年の慰霊祭に全日本仏教青年会OBとして出席しましたが、6月23日は沖繩の方々にとっては組織的抵抗が終わった日ということですか。何しろ県民の4人に1人が亡くなっているわけですね。

**小佐野** それも民間人ですからね。

**住職** 3月10日の東京空襲で10万人が亡くなりました。

**小佐野** 私たちはその3月10日に千葉県小中台にいて、高射砲の陣地で見習士官の訓練がありました。B29が攻めてきて、江東区一帯が焦土化されたときです。あの日3月11日から訓練があつて、10日には連隊に帰る未明です。小中台の上空を通過して江東区が全部やられたとき、私はそこをいたのですが、撃つても当たるはずもない高射砲で反撃していました。

**住職** 撃ち返したのですか。その話はよく聞きますが、炎がすごかつたようですね。

### 終戦を迎え帰還

**住職** それで3月10日が終わり、8月には終戦となつて武装解除等があつたのですか。

**小佐野** その間にいろいろありますが、それは省略して、武装解除をしました。

**住職** 終戦の前にはいろいろ不穏なことがあつたのですか。

**小佐野** 不穏というか、うわさ話がいろいろ出てくるわけですよ。現実には何か遭遇したことにはなかつたのですが、警戒しろというようなことは随分ありました。いざいざにしても私たちはあの調子の陣地からあるところへ行って、そこで解散になつて、田舎に帰るということになりました。

**住職** 帰郷する前に最初に寄つたのは妙壽寺ですか。

**小佐野** 妙壽寺は私にとって何か行動するときの拠点になつていて、挨拶をして帰りました。

**住職** ありがとうございます。そのときは日照上人にお会いになったのですか。

**小佐野** 会つたと思ひますが、その辺の記憶が余りないです。

**住職** 日照上人勝子夫人、私の祖母は若いお坊さんや皆様方のお世話を随分焼いていたのでしよう。

**小佐野** 世話を焼いていましたよ。私から見るといいお母さんでした。良過ぎるぐらいでした。

**住職** 終戦で山梨の実家に帰られて、しばらく田舎の生活が続くわけですが、その頃の内情はいかがでしたか。

**小佐野** そうですね。田舎に帰つてきたときは農業を手伝つたり、青年団に入団したりしていましたが、どうしても東京に出たいとお上人にお手紙を差し上げ、自分の気持ちを訴えたわけですね。(いきさつは「追想 三吉日照上人」154〜160頁参照。お上人に私の悩みを聞いていただき、上京していろいろ私の悩みも一つ、田舎でも少し頑張るのも一つだけけれども、東京の生活は大変だからもう少し我慢するか、という内容のご返事をいただきました。

ただ、あのころはお上人も京都大本山妙壽寺に貫首としてお勤めしなければならなかつたので、お寺では我々のような俗人が何人かお世話になつていて、それをどうするかという問題もあるし、悩みが多いのだというお手紙を頂戴しました。

**住職** 妙壽寺に戻られたのは何年ですか。

**小佐野** 24年です。それで就職しました。

**住職** すと、繰り上げ卒業ですね。

**小佐野** ですから、まともな卒業はしていません。それで家内の姉の主人が勤めていた大阪住友海上(現在の三井住友海上火災保険株式会社)を紹介され、入社試験を受けて入りました。

**住職** 奥様は甲府の方ですか。

### 「戦争」に思うこと

**住職** 今、世界各国でいろいろな紛争や戦争が起きていますが、戦後、日本は戦争をしないと宣言して守つてきたわけですね。小佐野さんは戦地に行つていませんが実際に戦争を体験されたと思います。今の時代や戦争についてはどのように思われますか。

**小佐野** 喧嘩も同じですけども、戦争するにそれぞれみんな理屈があり、仕向けられる人とは、それを受ける人が必ずあるわけですね。争うときは必ず誰か先に種をまき、それを受けるから争いになるのです。一部の軍人の闘争心によって平和が乱される。私は、先の戦争の元凶はやはり日本が悪かつたような気がしますが。今日の世界情勢をつくつたアジア地区における一つの元凶は、日本の当時の一部の為政者がそうしたという感じを受けています。

**住職** おかきさまで妙壽寺も小佐野家とご縁があつて、私もあつたと思ひますが、同時に常在寺さんと妙壽寺と長くご交誼をいたして、現在もいろいろなご指導いただきありがとうございます。

**小佐野** 今なお、日照上人について、私は考えれば考えるほどすごいことだと思ひます。日照上人は若くして妙壽寺を引き継いだわけですね。

**住職** 21歳です。

**小佐野** 常在寺さん、妙壽寺さん、しかも私は両方のお寺に関係させてもらっているわけですから、大変ありがたいと思つておられます。

**住職** 私にとつては小佐野さんのそういうお話を伺えるというのも本当にありがたいことです。日照上人は私が生まれる前に遷化されていますし、いわんや森智孝上人、その後森日行上人は私にとっては仰ぎ見るような方ですから、そういう方々のお話を少しでも聞かせていただいたことは本当にありがたいと思ひます。

**小佐野** そういう関係は今考えても何か必然的にいろいろつながりがあるなということがわかります。人間の縁というのは不思議ですね。

**住職** 本日は当山とつて大事な歴史の一コマの内容であり、貴重なお話を伺いました。誠にありがとうございます。

### Profile

#### しょう 小佐野 章 氏

- 大正 11年 5月 27日 生まれ 93歳
- 昭和 15年 山梨県立都留郡中学校卒業
- 17年 日本大学予科文科卒業
- 同大学法文学部法律学科入学
- 同学部特別研究生試験に合格
- 19年 戦時下特別措置として繰上げ卒業
- 24年 大阪住友海上火災保険株式会社入社
- 52年 同社退職と同時に自動車保険料率算定会社に入社
- 63年 同社退職

**小佐野** はい。24年5月に田舎で披露宴をしました。その際にお上人にお話をしたら、私は伊東深水先生の息子さんの仲人役で行けないからお上人に書いていただいたのがこれ(床の間に掲げている書)です。

**住職** 「祝小佐野章氏賀儀」。結婚だから賀儀です。この家で奥様との新生活を始められたのは…。

**小佐野** この家で生活したのは25年の暮れからです。翌年12月にこの土地をお上人に世話してもらいました。

**住職** こちらに住まわれて65年ぐらいということですね。